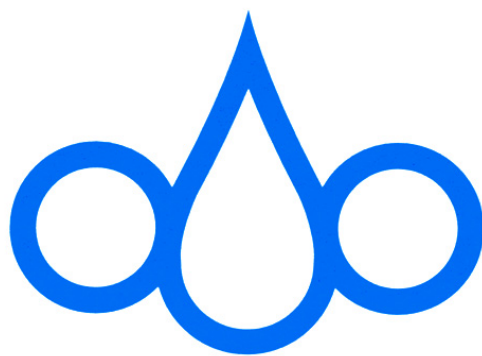


山陽小野田市水道事業総合計画 基本計画書

概 要 版



**SANYOONODA CITY
WATER WORKS BUREAU**

脈々といのち支える水の道

山陽小野田市水道局

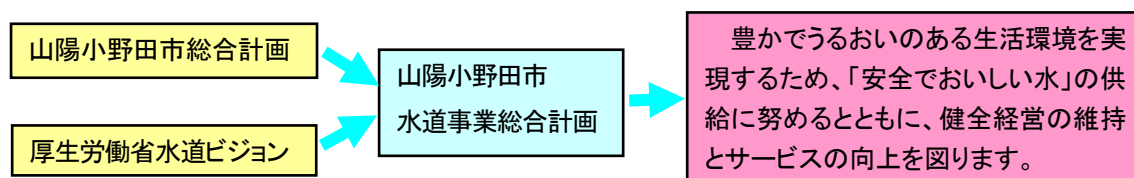
計 画 の 目 的 等

平成 17 年 3 月 22 日に小野田市と山陽町が合併して山陽小野田市が誕生し、それに伴いさらなる飛躍を目指して第一次山陽小野田市総合計画を策定して、新たなまちづくりを進めることとなりました。

また、平成 16 年 6 月に厚生労働省から 21 世紀の初頭において、水道の将来像についての共通認識を明示した「水道ビジョン」が発表されたところです。平成 17 年 10 月には、厚生労働省から「地域水道ビジョン作成の手引き」が通知され、市町村単位での水道ビジョン作成の取り組みをすすめることとなりました。

市民生活及び都市活動の基盤となる水道水を供給し続けるためには、適切かつ効率的な事業経営の観点から、長期的な水道事業のあり方を定め、今後より一層の経営基盤の強化に取り組む必要があります。

このような背景から、本計画は山陽小野田市総合計画の一端を担う地域水道ビジョンとして、「うるおいのある快適なまちづくり」を目指し、その実現する施策等を明らかにして、市民から信頼される水道事業の構築のための計画的な事業経営の指針とするものです。



○水道ビジョンの概要

現状と将来の見通しを可能な限り定量的に分析、評価し、その結果をもとに今後の水道のあるべき姿について議論し、水道に関わるすべての人々の間で、水道の将来像についての共通認識の形成を目指す。

水道ビジョンは 21 世紀の初頭において、関係者が共通の目標を持って、互いに役割分担しながら連携して取り組むことができるよう、その道程を示すことを目的とする。

○地域水道ビジョンの概要

各水道事業および水道用水供給事業においては、安全・快適な水の供給の確保や、災害時にも安定的な給水を行うための施設水準の向上等に向けた取組、運営基盤の強化や技術力の確保が求められており、これらの課題に適切に対処するための取り組み施策を推進する。

「地域水道ビジョン」では、「水道ビジョン」が掲げる「世界のトップランナーを目指してチャレンジし続ける」を基本理念とした「安心」、「安定」、「持続」、「環境」及び「国際」という 5 つの政策課題に関する目標を達成するために取り組みを進めることが必要不可欠であるとしている。

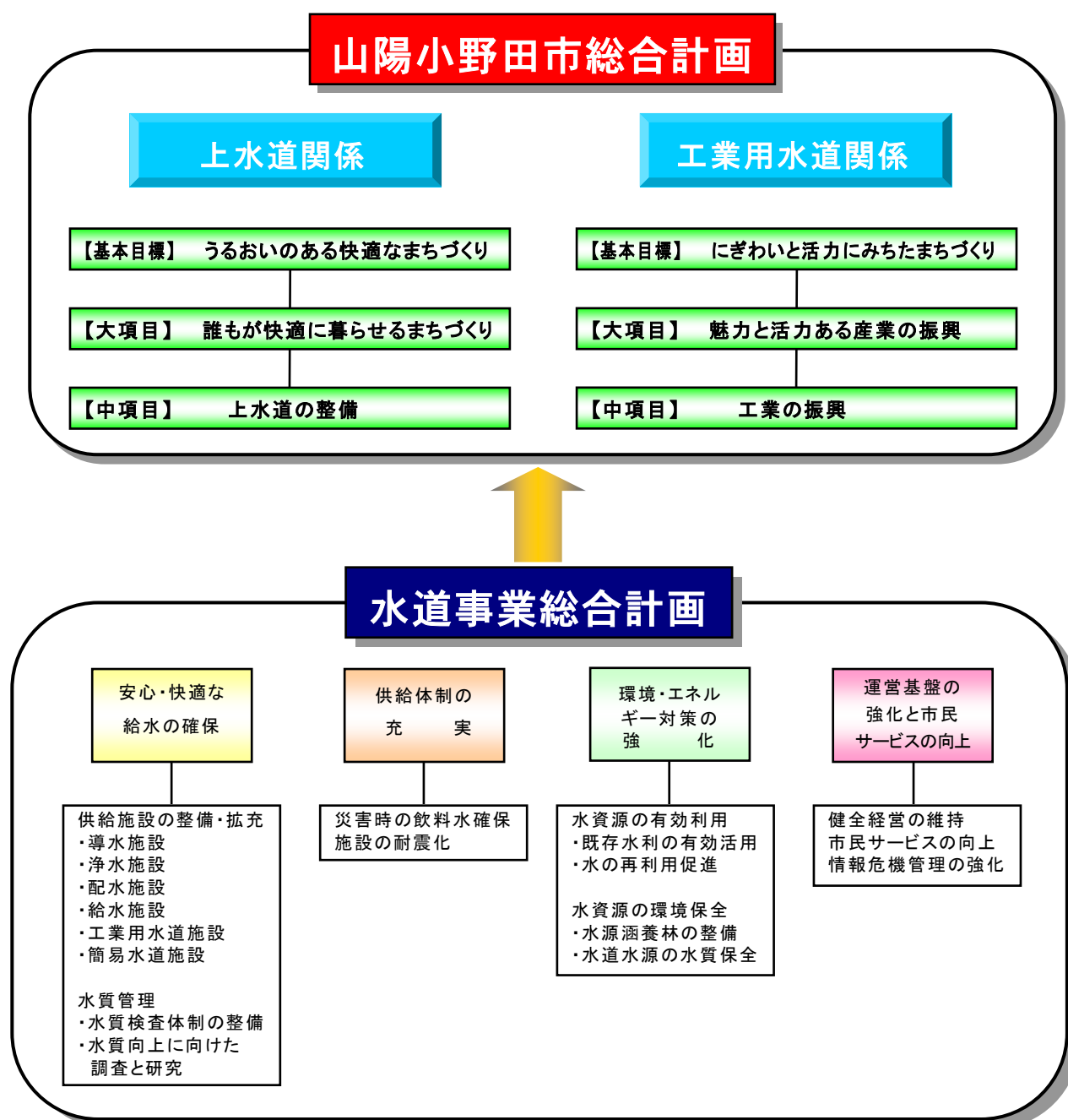
計画期間は概ね 10 年とし、記載事項としては以下のとおり

- ①事業の現状分析・評価
- ②将来像の設定
- ③目標の設定
- ④実現方策の検討

計画の基本方針と期間

基本方針	豊かでうるおいのある生活環境を実現するため、「安全でおいしい水」の安定供給に努めるとともに、健全経営の維持とサービスの向上を図ります。
計画期間	平成19年(西暦2007年)度下期から平成29年(西暦2017年)度までとして、前期5.5ヶ年(平成19年度下期～平成24年度)、後期5ヶ年(平成25年度～平成29年度)の2期に分けるものとします。また、3年を一区切りにして、市総合計画に合わせて計画的に見直しを行います。

計画の体系



水道の歩み

本市の水道事業は拡張事業を重ねながら、市民の健康で文化的な生活を支えるとともに、産業活動や都市機能の向上に必要なライフラインとして市勢の発展に寄与してきました。

平成 17 年 3 月 22 日の山陽小野田市の誕生と同時に、計画給水人口 83,720 人、計画一日最大給水量 48,230m³/日の水道事業と 2 つの簡易水道事業及び工業用水道事業を合わせて山陽小野田市水道局がスタートしました。

現在では上水道の普及率が 99.5%（小野田地区ほぼ 100%、山陽地区 98.6%）となっており、殆どの地区で上水道が利用できるようになり、本市の水道事業も成熟段階に入ったといえます。

〈山陽小野田市の水道事業〉

項 目	内 容
事 業 名 称	山陽小野田市水道事業
計 画 給 水 人 口	83,720 人
計 画 一 日 最 大 給 水 量	48,230 m ³
計 画 一 日 平 均 給 水 量	40,530 m ³
計 画 一 人 一 日 最 大 給 水 量	563 ㍒/人/日
計 画 一 人 一 日 平 均 給 水 量	484 ㍒/人/日

※上表の数値については、行政合併の際に両市町の水道事業の計画値を合算した数値です。

※水道事業総合計画については、上表の数値にかかわらず山陽小野田市総合計画の目標年次である平成 29 年度の目標人口 64,000 人の規模により計画を策定します。

〈山陽小野田市簡易水道事業の概要〉

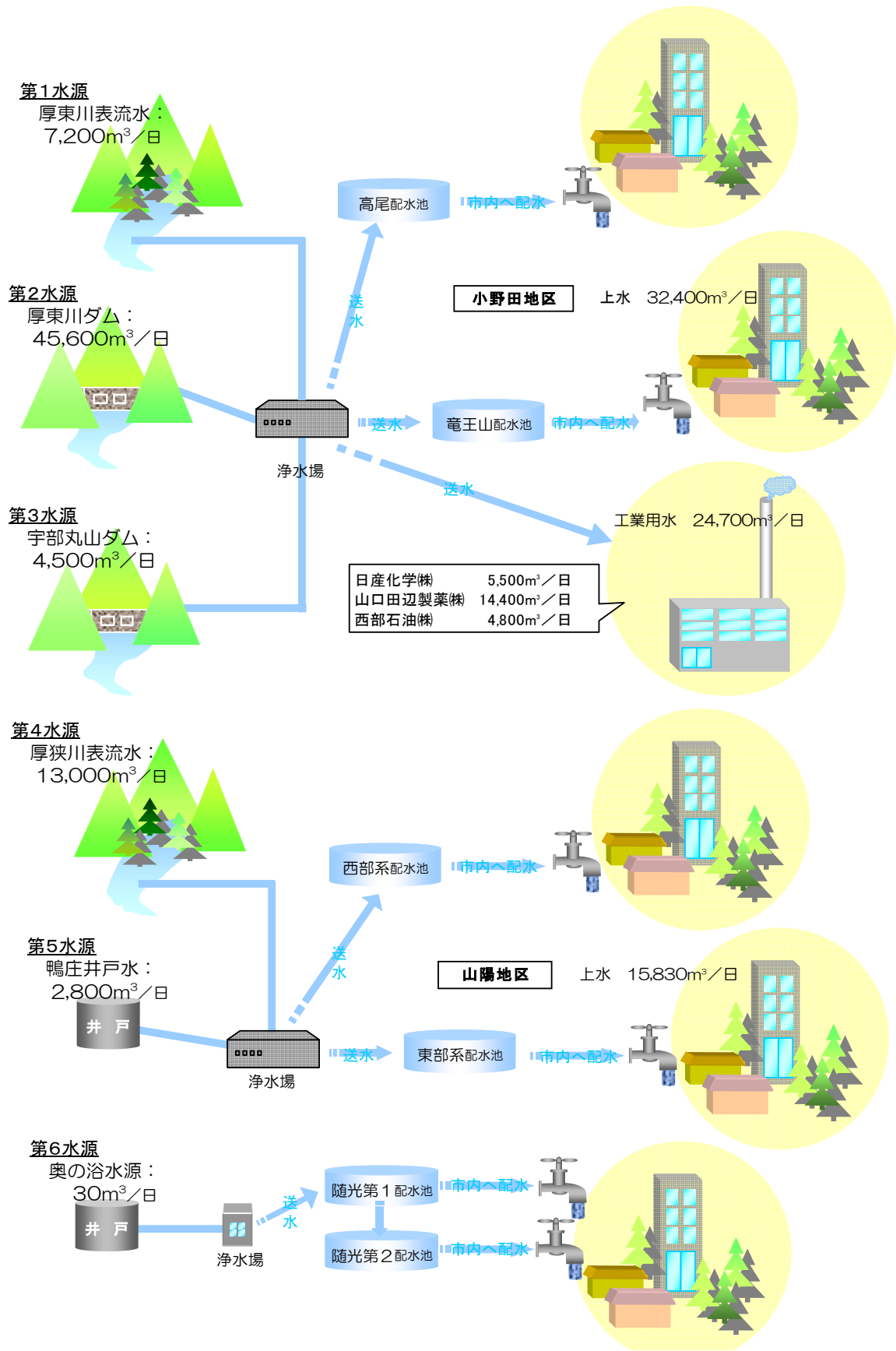
平成 17 年 3 月末現在

名 称	計画 1 日最大 給水量 (m ³)	計画給水 人口 (人)	現在給水 人口 (人)	現在給水 戸数 (戸)
山陽小野田市鋳物師屋・ 西山地区簡易水道事業	38	190	99	48
山陽小野田市平原・ 片尾畑地区簡易水道事業	22	110	73	30

〈山陽小野田市工業用水道の現況〉

使 用 者 名	給水開始年度	契約水量 (m ³ /日)	主な送水管口径・管種
日産化学工業株式会社	昭和 29 年 4 月	5,500	φ 300 mm 鋳鉄管
山口田辺製薬株式会社	昭和 38 年 4 月	14,400	φ 400 mm 鋳鉄管
西部石油株式会社	昭和 43 年 8 月	4,800	450 ^A 鋼 管
合 計		24,700	

山陽小野田市の水道概要



※図中の数値については、計画1日最大水量を示します。

水道の現状と課題

水需要の動向

本市の水道事業は、小野田地区が昭和6年、山陽地区が昭和27年の通水から、50～70数年を経過しており、どちらも施設の老朽化が進んでいます。

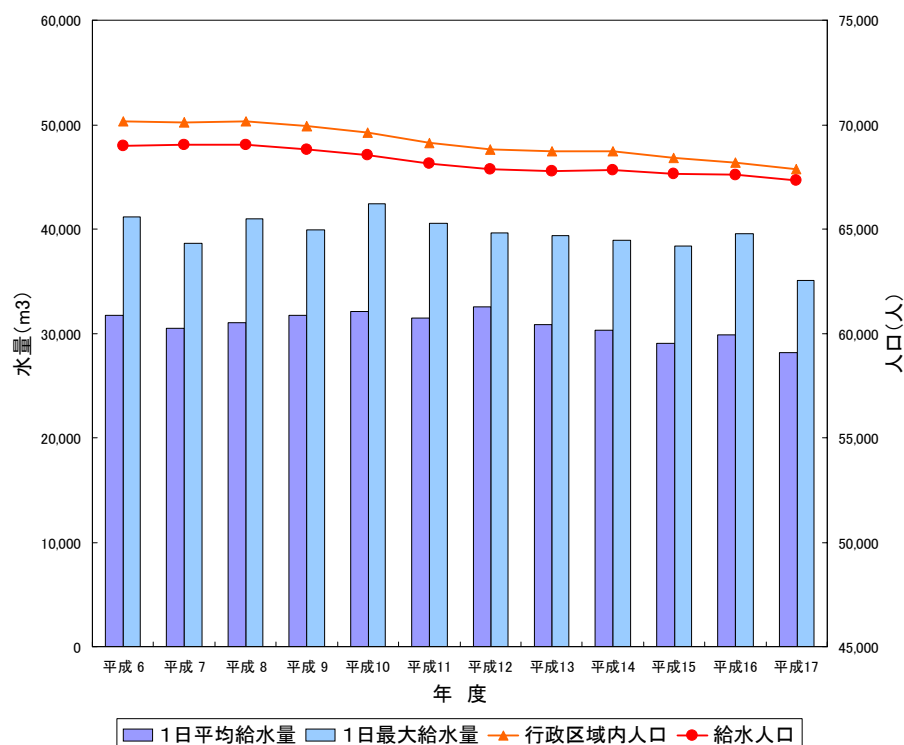
しかし近年では、暮らしの安全に対する関心が高まる中で、将来にわたって安全でおいしい水を安定的に供給するとともに質の高いサービスが求められています。

そのうえ、水道事業に対する環境は年々厳

しくなっており、水道水源の水質の悪化や施設の老朽化、渇水や地震等の災害への対策の強化等、多くの課題が山積みとなっています。

このような状況の中、安全・快適な水の供給や、災害時にも安定的な給水の確保を実現するためには、長期的な視野に立ち計画的に老朽化施設の機能回復と増強を図るとともに、災害等の非常時に対応できる水道施設の構築が必要となっています。

また、将来は少子高齢化に伴う人口の減少や節水社会への移行による料金収入の減少が見込まれていることから、独立採算で事業を運営する地方公営企業として、一層の企業努力と効率性の発揮により運営基盤の強化を図ることが求められています。



水道事業の現況

平成17年度末

項 目	単 位	小 野 田 地 区	山 陽 地 区	合 計
行政区域内人口	人	45,270	22,585	67,855
給水区域内人口	人	45,270	22,368	67,638
給水人口	人	45,265	22,057	67,322
給水戸数	戸	18,408	8,852	27,260
普及率	%	100.0	98.6	99.5
1日最大給水量	m³	23,357	12,341	35,623
1日平均給水量	m³	19,129	9,076	28,205
年間配水量	m³	6,982,041	3,312,734	10,294,775
年間有収水量	m³	6,083,164	2,871,232	8,954,396
有収率	%	87.1	86.7	87.0

(注1) 普及率＝給水人口／給水区域内人口

(注2) 1日最大給水量の欄は、各データにおける給水量の最大日の数値

山陽小野田市内の配水系統図



主要な計画概要

安心・快適な給水の確保

方針

水道水を安定的に供給するための最適な水道施設の構築を目指し整備を行います。

安全でおいしい水の供給のため、徹底した水質管理に取り組みます。

1 供給施設の整備・拡充

項目	目 標
導水施設	水源より安定した水質の原水を取水することを目標とします。また、取水した原水を浄水場に安定して供給することができる施設を構築します。
浄水・送水施設	老朽施設の整備または更新を行い、安全な飲料水の安定供給を図ります。
配水池	安定した水道水の供給のため、配水池の新設及び増設を行い、効率的な配水施設を構築します。 市内全域において、厚生労働省の設定目標である計画1日最大給水量の12時間分以上の配水池容量の確保に努めます。
配水管	老朽管路を中心に優先順位の高いものから更新を行います。また、小野田地区と山陽地区の配水管の連絡を行い、市内の配水の安定を図ります。
給水施設	安全な水の供給と利用者の利便性の観点から、直結給水への切り替えの促進を図ります。 市内の給水管に使用されている鉛管を早期にポリエチレン管等の給水管へ更新し、安全・安心な飲料水の供給と、漏水の防止及び修繕費の削減を図ります。

項目	目 標
簡易水道施設	簡易水道の給水区域については、出来るだけ早期の上水道化に向けて、財源の確保も含めて努力をします。
工業用水道施設	送水施設の効率化と管路の更新を行い、送水の安定を図ります。 今後の新規需要に対応できるよう、工業用水の水源確保を促進します。

2 水質管理

項目	目 標
水質検査体制の整備	安全でおいしい水を安定して供給することを目指して、水道の水質を常時監視し、非常時に迅速な対応ができるよう、山陽小野田市独自で水質検査ができる体制づくりを行います。
水質向上に向けた調査と研究	検査機器の定期的な点検整備及び更新と、検査の効率化、検査担当者の技術向上を行います。

供給体制の充実

方針

災害等の非常時にも、安定した水道水を供給するため、施設の耐震化や断水を極力防止できるような水道施設の構築を図り、併せて応急給水や復旧体制の整備を行います。

1 災害時の飲料水確保

目 標	
1	配水池の容量増加や緊急遮断弁の設置により、災害時の飲料水の確保を図ります。
2	市内全域において、厚生労働省の設定目標である計画1日最大給水量の12時間分以上の配水池容量の確保に努めます。

目 標	
3	山陽小野田市水道局危機管理計画に沿って、平素より災害時に対応できる体制づくりを行います

2 施設の耐震化

目 標	
1	水道施設の効果的・効率的な耐震化を目指し、長期的な目標を定めて計画的に進めていきます。

水道局では、水道水ペットボトル「森響水」を災害時の備蓄用に製作し、水道局や緊急給水拠点等に常備しています。（平成 18 年度 5,000 本製作）



地球上では水が様々な形となって循環し、そのなかで水が森林を育て、森林が水を生みだします。

このことから、「水」と「森」は、影響しあい響きあっているといえます。

山陽小野田市水道局では、この森林と水の関係から、水道水のペットボトル製作にあたり「森響水（しんきょうすい）」と命名しました。



環境・エネルギー対策の強化

方針

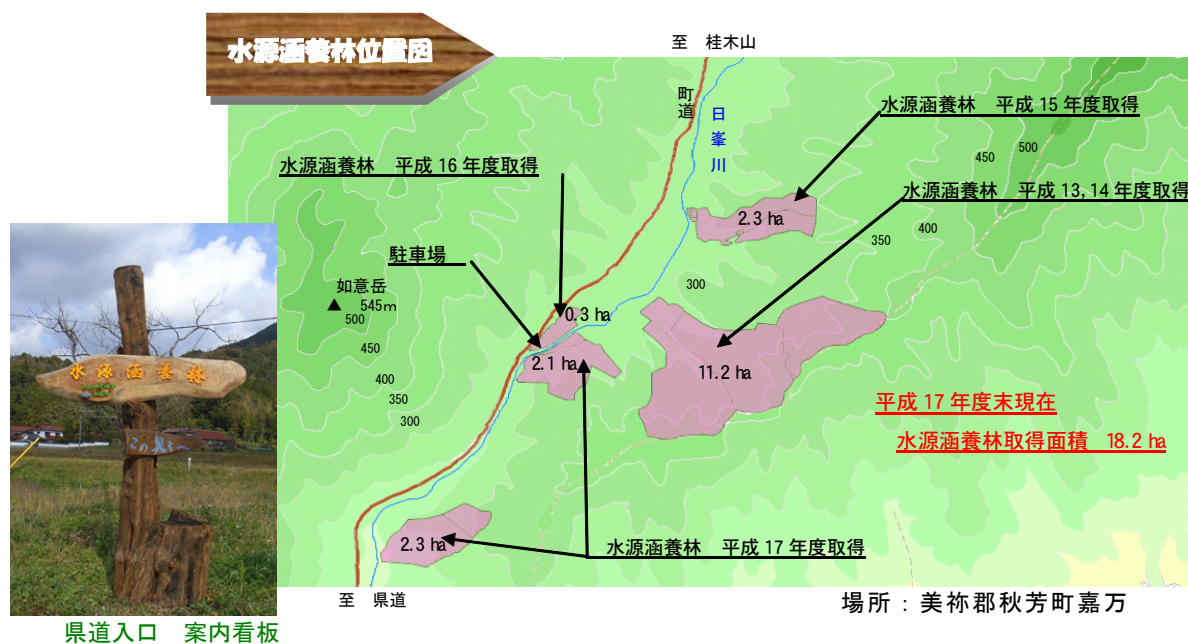
水道事業は水資源や電力を消費する事業であることから、漏水の防止や事業活動による環境負荷の低減を図るとともに、水源の涵養を目的とした山林の保護活動に取り組みます。

1 水資源の有効利用

項目	目標
既存水利の有効活用	有収率90%以上を目標として、水の有効利用を図ります。
水の再利用促進	水資源の有効な再利用を図り、水循環社会の構築を目指します。

2 水資源の環境保全

項目	目標
水源涵養林の整備	豊かな水源である厚東川や厚狭川を次世代へ引き継いでいくため、源流域の森林を取得し、モデル涵養林として保全し整備するとともに、市民各層の幅広い参加による植林活動や森林、溪流とのふれあい等の体験活動を通して、水源涵養の重要性を広く啓発し、併せて上下流域間の市民の交流を図ります。
水道水源の水質保全	市民の健康と生活を守るため、水道水源の水質保全に取り組みます。



運営基盤の強化と市民サービスの向上

方針

財政運営の視点から、料金収入の確保と徹底した経費の削減や、事業の効果・効率の検証を行い、最小のコストで最大の効果が得られることを目標に収支構造の改善を図るとともに、市民サービスの向上を図ります。

1 健全経営の維持

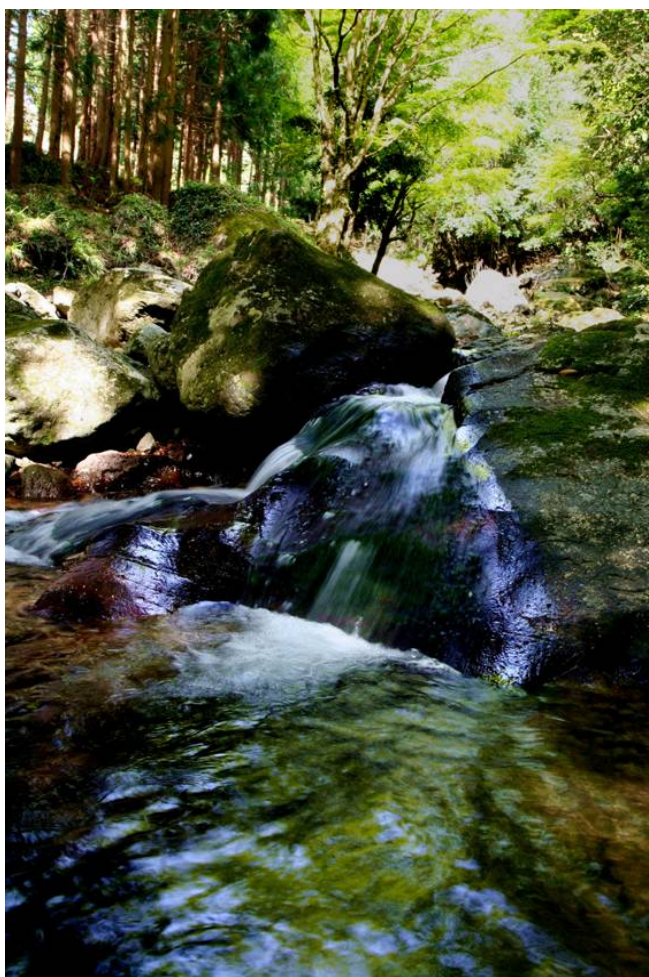
項目	目標
公営企業としての方向性	全ての市民に対し、適切な費用負担のもと、安心して安定した飲料水を継続的に供給し、サービス水準を高めて信頼性の高い水道を構築するとともに、給水区域内において普及率100%を目指します。
コストの総合的な適正化	一般管理経費や施設整備等の投資的経費など、水道事業にかかるコストを総合的に適正化することにより経営基盤の安定を図ります。あらゆる分野で徹底した経費削減に努め、収支構造の改善を図ります。併せて事業の効果・効率を検証し、その結果を事業に反映できる体制作りを行います。
水道料金体制の整備	市内における地区別料金体制を解消するため、平成20年度を目途に水道料金の統一を行います。また今後は、老朽化した施設の更新及び新たな事業を展開していくため、経営努力を行うことはもちろんですが、水道使用者の理解を得るなかで一定周期における水道料金改定も視野に入れながら健全経営に努めます。

2 市民サービスの向上

目標
水道事業に関する情報の積極的な公開と対話を推進し、水道使用者のニーズを的確に把握し、給水サービスの充実を図るとともに、水道局と水道使用者との相互理解と協力関係を促進します。

3 情報危機管理の強化

目標
コンピューターを使用したシステム等からの情報漏洩は、それを扱う者の「情報の価値」に対する意識の低さや、コンピューターやインターネット等のネットワークについての知識の不足が原因となる場合があるため、職員一人一人がこのような情報等に対する危機管理について正しい知識を身に付け、水道局全体として水道使用者情報や各種システム等の保護を図ります。



水源涵養林付近を流れる日峯川（ひのみがわ）

山陽小野田市水道事業総合計画

平成 1 9 年 1 0 月発行

編集・発行 山陽小野田市水道局

〒756-0092 山口県山陽小野田市新生一丁目 8 番 22 号

TEL 0836-83-4111 FAX 0836-83-4597

e-mail suido-soumu@city.sanyo-onoda.lg.jp